

骨・関節の病気

# 関節リウマチ

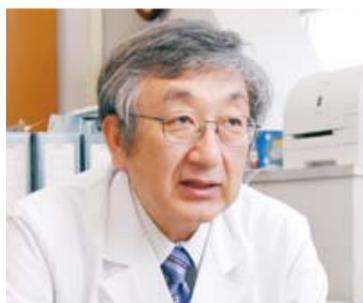
## 左右対称が特徴の1つ

関節リウマチは、関節に炎症が起こり、腫れて痛むようになる病気。原因はよくわかっていないが、細菌やウイルスの感染と環境因子が関係しており、本来身体を守るはずの免疫が自分の身体を誤って攻撃してしまう自己免疫疾患とさ

れる。30〜50歳代で発症することが多く、女性の罹患率は男性の約3〜4倍にもなる。

「関節リウマチの歴史は非常に古い」と話すのはリウマチ・膠原病科の佐野統主任教授。「骨の研究により約3千年前からあったことがわかっていきます。また、コロンブスやルノワール、アガサ・クリステイなどの偉人もリウマチだったと言われています」。

症状としてはまず、手指や手首、足趾などの関節に痛みや腫れが見られ、朝起きた時に関節がこわばり動かせない状態が1時間以上続くこともある。雨の日や気温が低い日などに痛みが強くなることが多い。進行すると、関節を取り巻く滑膜が増殖し、軟骨を破壊する。また、増殖した滑膜細胞から作ら



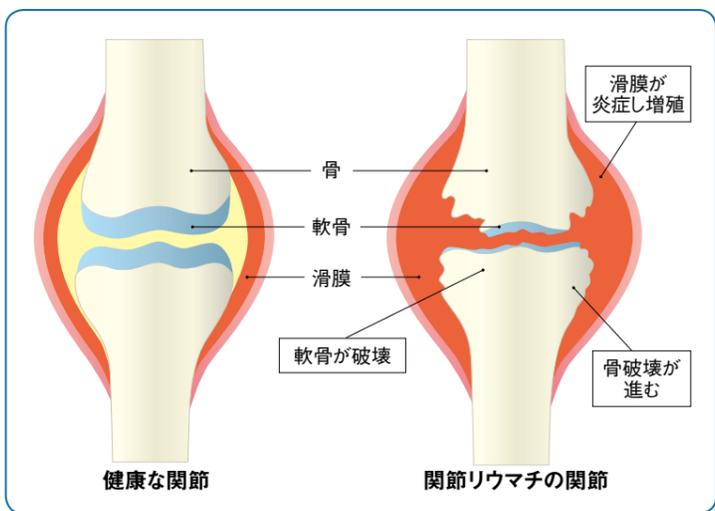
リウマチ・膠原病科の  
はじめ 佐野 統 主任教授

れたサイトカインという生理活性物質や酵素により軟骨や骨が溶け、関節の変形が起こる。

「特徴は、左右対称に起こることです。例えば、右手の親指の付け根の関節に症状が出ると、左手の同じ位置の関節にも症状が現れます」。全身にある約68個の関節のすべてに症状が出る可能性があるという。

## 日々進歩する検査と治療

「関節リウマチの検査や治療は、ここ10年で劇的に進歩しました」と佐野主任教授。関節が痛んだり変形したりする病気は多く、関節リウマチの診断にはしっかりとした検査が必要だが、レントゲン撮影や血液検査とともに、MRIや関節エコーを用いることで、早期の診断も可能となっている。昨年、新しいリウマチ診断基準も作られた。



治療に関しては、以前は副作用の強いステロイド薬を使うことが多かった。現在は、メトトレキサートという抗リウマチ薬が大きな効果を上げている。「欧米ではメトトレキサートが標準治療薬として使われており、日本でも今年から欧米と同じくらいの量を早期から投与できるようになりました」。また近年、画期的ともいえる効果を上げているのが、生体を作るさ

さまざまな生理活性物質を標的とする生物学的製剤だ。「現在、日本で使用できる生物学的製剤は5つあり、もうすぐ6つ目の薬剤が発売される予定です。これらの薬を上手く使用することで、早期に治療すれば治る可能性も出てきました」。中には、車いすで来院された患者さんが点滴だけで杖もつかずにスイスイと歩けるようになった例もあるという。

## 予防的な手術も選択肢の1つ

一般的に行われる関節リウマチの手術には、大きく分けて滑膜切除術と関節再建術がある。滑膜切除術は、増殖した滑膜を取り除き、関節破壊の進行を抑える手術。また関節再建術は、破壊されてしまった関節を、人工関節を使って再建する手術で、体重のかかる膝や股関節に対して行われることが多い。整形外科の福西成男講師は「現在は、関節再建術が圧倒的に多く行われています。しかし、変形がひどくなり、骨の欠損が大きくなっ

てから手術すると、合併症を起こす確率も上がり、手術自体も大変になります。長い間関節をかばって生活していると筋力が落ちてリハビリも大変になるので、関節の変形がひどくなる前に人工関節手術を受けたり、まだ軟骨が残存している初期に予防的に滑膜切除術を受けることも大切だと思います」と話す。

人工関節は、手術後20年たった時点で約1割に交換(再置換)が必要だといわれている。「人工関節を長持ちさせるには、元来の関節と同じように正確に設置することが大切です」と福西講師。兵庫医科大学病院では、人工関節の手術にコンピュータナビゲーションシステムを導入して、より正確な手



整形外科の  
ふくにし 福西 成男 講師

術ができるようにしている。また、骨の欠損が大きい場合、手術の際に自分の骨だけでは賅えないこともある。「兵庫医科大学病院のボンバンクには、これまでの手術の際に摘出された骨が滅菌消毒されてマイナス80度で保存されており、それを利用して手術を行うこともできます」。

## 早期発見・早期治療が大切

「もう一つの兵庫医科大学病院の特徴は、関節リウマチの自己注射導入率が100%ということだ」と佐野主任教授。生物学的製剤の中でも、エタネルセプト(商品名エンブレル)という薬剤は1週間に1〜2度、アダリムマブ(商品名ヒュミラ)は2週間に1度、皮下注射で投与する。兵庫医科大学病院では、地域医療・総合相談センターが中心となって自己注射の指導・支援を行っており、これにより関節リウマチの患者さんは、糖尿病の患者さんが行うインシュリンの自己注射と同じように自分で薬を

注射できるようにするため、頻繁に病院に通う必要がない。

兵庫医科大学病院は、リウマチ性疾患の患者数が大学病院の中で全国一、二を争う。「非常にたくさん症例を診ていますが、もともと早く来てくれたらという患者さんも多い」と佐野主任教授。「関節リウマチには早期発見・早期治療が大切。進行の度合いは人によって異なりますが、発症から2年以内に適切な治療をしないと重症化するといわれます。特に、発症3か月以内に治療ができれば、予後に大きな差が出てきます」。関節が痛んだり腫れたりしたら、我慢せずすぐにリウマチ専門医を受診することが大切だ。



がん

目・耳・鼻・口の病気

胃・腸・食道の病気

呼吸器の病気

骨・関節の病気

脳・神経の病気

皮膚の病気

肝臓・すい臓・胆嚢の病気

腎臓・泌尿器の病気

循環器と血液の病気

全身の病気

こころの病気

女性の病気

子どもの病気